

2020年8月7日掲載 物流ニッポン

「週2日休」へ移行

10月若年層確保むけ

第一貨物

第一貨物（米田総一郎社長、山形市）は10月1日から「週2日休（完全週休2日）制」を採用、移行する。新制度への移行により、現行の年間105日から123日（2020年度実績見込み）の休日を保証。現在進行中の3カ年中期経営計画（中計）では「職場・住環境の改善」を重点施策に掲げ、ターミナルや住宅の移転新築に取り組んでいる。引き続き、新制度を活用しながら若年層確保に向けた採用力強化の取り組みを加速させていく。（高木明）

平日振り替え可能 土曜出勤

これまで5月の大型連休や年末年始などは、まったく休日を取得できていた。しかし、土曜日については取引先の集荷・配達に依頼もあり、交代制による出勤体制にあり、実際には「隔週（土曜）休み」のようになく、「週2日休制」の呼称で実施していく。総休日数は金融・保険業界とほぼ同一水準という。同社によると、社員数は4207人（20年3月末現在）で、ドライバーを中心とした慢性的な人手不足の状況にあり、純減傾向が続

いている。また、従業員不足により外部委託費の増加も利益落ち込みの要因にもなっている。米田社長は内製化による輸送品質の維持・向上や、給与水準の引き上げを確実なものにしていくためには（従業員数を）純増傾向に転換していかねばならない」と強調。現在、22年3月期を最終年度とした中計に取り組んでいる。重点施策である職場・住環境の改善に向けては新東京支店（東京都江東区）、新山形支店（山形市）の移転新築、更に、新東京支店（江戸川区）、新八潮支店（埼玉県八潮市）など各施設の建設を進めている。

職場・住環境の改善に向け東京都江戸川区などに社宅を建設



る。米田氏は「週2日休制への移行や社宅の新築などにより、採用競争力が強化される」と話している。